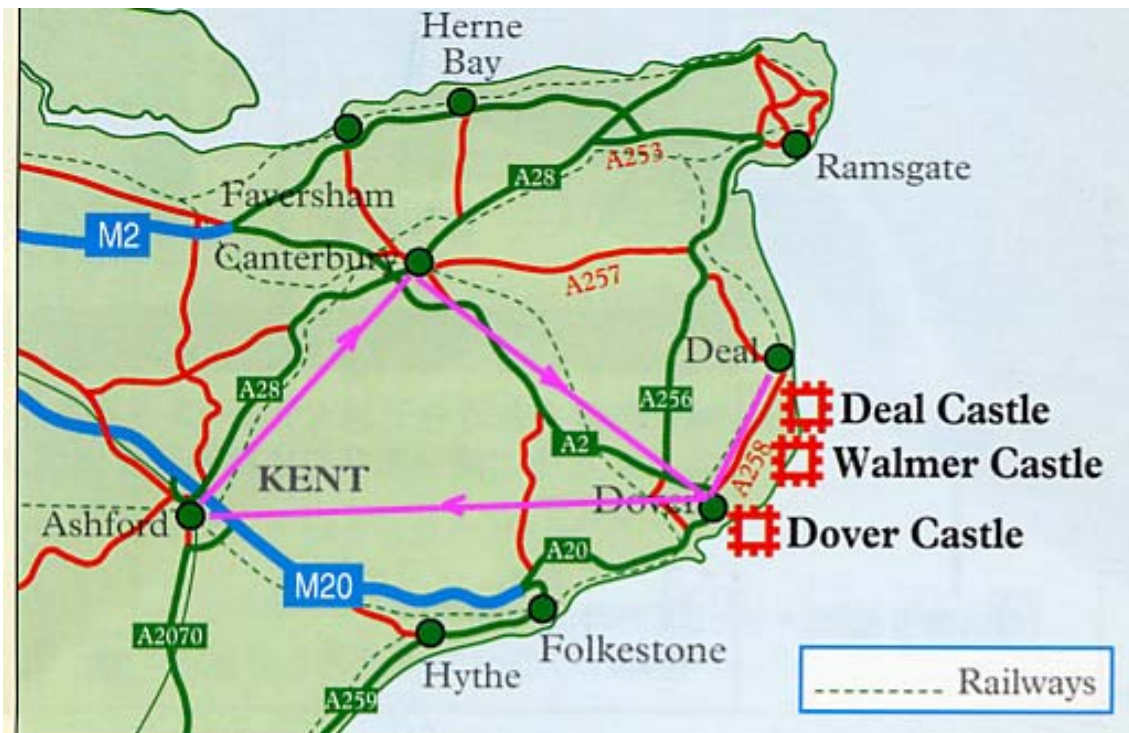


# 英国南部旅行(1999)

## その10：カンタベリー、ドーバー、ディール

7月28日(水)

今日はカンタベリー大聖堂(Canterbury Cathedral)、聖アウグスティヌス修道院跡(St. Augustne's Abbey(Ruins))、ドーバー城(Dover Castle)、ディール城(Deal Castle)、ウォルマー城(Warmer Castle)を見て回った。



左に写真はアッシュフォード・インターナショナル・ホテルである。ここに3泊し、付近を観光した。はじめに、ホテルの隣にあるショッピングセンターの現金引出機(シティバンクカード使用)で当座資金を調達してから、A28でカンタベリー(Canterbury)へ行った。中心部は城壁に囲まれており、その中

に大聖堂、バスターミナル、駐車場、デパート、商店街などがあつた。立体駐車場に車を止め、歩いて散策した。まず行ったのがキリスト教の総本山の大聖堂である。大聖堂が設



立されたのは西暦 597 年であるが、ベル・ハリ  
ー・タワーが竣工したのは 1498 年で、これで大  
聖堂は完成した（上の写真）。聖トーマス・ベケ  
ット（イギリスで一番えらい聖職者）が 1170 年  
に暗殺されたのでも有名である。下の図は見学コ  
ースを示したもので、日本語のテープを借りて説

明を聴きながら見学した。大聖堂内ではお祈りが行われていたが、見学者も沢山おり、厳  
粛さが失われていた。町全体に、近代化  
の波が押し寄せているが 1000 年前はど  
のような雰囲気であったのだろうか？  
続いて城壁の外にある約 400 米離れた聖  
アウグスティヌス修道院へ行った。6 世  
紀初め凶行グレゴリウスが布教のため  
聖アウグスティヌスたち送り込んだと  
言う。今は既に廃墟となっている（下の  
写真）。設立時期が大聖堂とほぼ同じ頃  
であり両者の関係は興味深い。



駐車場へ戻る途中に、タイ料理  
の店(HNGKOK HOUSE)があ  
ったのでそこで昼食をとった。  
そしてA2 でドーバーへ向かっ  
た。ドーバーは海の玄関として  
有名である。かつては対フラン  
ス戦略の要所であり、ドーバー  
城は「王国の鍵」と呼ばれてい  
る。これは数ある英国の城の中  
でも最も古く、大きなものの一

つで、鉄器時代から核兵器時代絶え間のない歴史の逸話を秘めています。ホワイト・クリフの上に建つドーバー城からは真下にホーククラフトの岸壁がありドーバー海峡を行き来する船舶が見渡せた。ユーロトンネルの完成で今では便数が減っていると思われるが、1978年7月ロンドンのヴィクトリア駅から夜行でパリ北駅へ行ったときフェリーに乗ったことが昨日のように思い出された。



上図はドーバー城の全景であるが、黄色の丸印が切符売場である。ここはストーンヘンジ、ウォルマー城、ディール城と並んで English Heritage (イングランドの歴史的な建物や史跡の保護団体) の指定施設となっている。



次に、A258でディールへ向かった。ディールの海岸通りにあるディール城は、ヨーロッパのカトリック教徒の力による侵入の脅威に対して1530年代の終わりにヘンリー8世が築城したもので、これは防衛のため英国の南部海岸に沿って建造された多くの城のうちの1つである。非常にユニークな形状をしているのが印象的でした。

ドーバーへ戻る途中、ウォルマー城に立ち寄った。ウォルマー城は、ディール城と同様、フランスの侵入を防ぐため、ヘンリー8世によって一連の海岸の砦のうちの1つとして構築されました。1708年以來、チンクポートの君主管理人の官舎、および多くの有名な人々の住居となっています。庭園（下の写真）が非常に美しかったのが印象的でした。

この後、ドーバーを経由してA20とM40でアッシュフォードへ戻り、町の中心をぐるっと回り、ホテルへ戻った。夕食はホテルのレストランでとったが、ヨーロッパ大陸が近いためか、ドイツ人の高齢者の団体が一緒でした。

